

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年8月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2772401515
法人名	医療法人 りんどう会
事業所名	グループホーム青翠園
所在地	枚方市招堤中町3丁目3-23 (電話) 072-809-5115
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 7月 18日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	21人	常勤11人, 非常勤	10人, 常勤換算 20.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 2,000円			

(4) 利用者の概要 (平成 20年 7月 3日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.5歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医) りんどう会向山病院、有地歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

二十年の歴史を持つ経営母体の医療法人りんどう会が、地元の要望に沿って地域貢献の一環としてグループホームを設立しました。2階建て2ユニットのホームです。近辺は緑豊かな田園風景が広がり、農道の散歩や農作物の成長を楽しんでいます。ホームで自治会に加入し、毎年夏の花火大会に参加しています。また、園の畑に植える作物の苗を頂くなど交流があります。一年前よりデイサービス、ショートステイを開始し、利用者がスムーズに入居に至るケースも有ります。管理者は認知症に対する理解が深く、キャラバンメイトの先駆者で、「認知症サポーター講座」を地域公民館で開催し、多くの参加を得ました。利用者の暮らしの中で本人が決める力やその人らしい希望や願いを引き出し、把握していけるよう個別支援に取り組んで、自由で家庭的な雰囲気作りを心がけています。また資格取得の為の研修も予定しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の評価改善について3項目ありましたが、職員間で話し合いを行い、利用者の生活歴については個々の記録に加える事や、避難訓練についても実施しています。外部評価の結果は来訪した家族が閲覧できるように掲示しています。改善内容については運営推進会議等で報告しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と各ユニットのリーダーが集まって協議し作成しています。サービス評価の意義や目的を全職員で共有するために、職員全員で取り組むことが期待されます。評価結果については、会議で報告し、結果を生かして改善に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には地域老人会会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族代表、管理者、職員が参加して、2ヶ月に1回開催しています。職員研修の報告や、事故発生件数、デイサービスについて、訪問診療に変更する件等について話し合いがあり、ホームでのサービス向上に活かしています。入浴の時間帯について提案を受け変更しました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会や訪問の際には近況を伝えるとともに、毎月1回お知らせの機会を設けています。金銭管理については金銭出納帳を明示し、健康状態や服薬状況も報告しています。玄関脇に意見箱を設けています。その他に夏は茶話会、冬はクリスマス会等、行事の際に家族会を年2回開催し、何でも話し合える機会を作っています。機関紙の発行を計画中です。運営推進会議に家族も出席し意見を述べてもらっています。介護相談員を月1回2名派遣してもらい、利用者の声も反映できるようになっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方から野菜の苗を頂き、育て方を教えてもらうなど交流があります。地域の行事には夏祭りや花火大会に参加しています。地域の清掃活動の一環としてホーム前のゴミ拾いを実行しています。また、近隣の中学校から依頼を受け、毎年中学生の福祉体験プログラムの受け入れを行っています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念作成については、地域密着型の理念を目指して職員みんなで考え、「安心して自立した生活」「ゆっくり寄り添う介護」「地域に開かれたホーム」を掲げ、パンフレットに掲載して啓発しています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、各フロアに掲示して、朝礼の時には常に確認しています。職員は理念について理解し共有しています。また、地域との交流の機会を増やすよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	近隣の方から野菜の苗を頂いたり、育て方を教えてもらったり交流があります。地域の行事には夏祭りや花火大会に参加しています。地域の清掃活動の一環としてホーム前のゴミ拾いを行っています。また、近隣の中学校からの依頼を受け、毎年中学生の福祉体験プログラムの受け入れをしています。近隣のグループホームや地域包括支援センターと協力して、認知症サポーターの講座を地域の公民館で開催し、たくさんの参加者を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を会議で共有し、外部評価の結果は来訪した家族が閲覧できるように掲示しています。また、改善に向けて話し合い、具体的に改良している点もあります。自己評価については、管理者、職員と検討し運営推進会議等で報告しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域老人会会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族代表、管理者、職員が参加して、2ヶ月に1回開催しています。職員研修の報告や、事故発生件数、デイサービスについて、訪問診療に変更する件等について話し合いがあり、ホームでのサービス向上に活かしています。	○	運営推進会議を進めるにあたり、目的や構成を定めた規定・規約を作成することが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じてメールや電話で連絡を取り合っています。地域包括支援センターより運営推進会議のメンバーとして参加しています。介護相談員を月1回2名派遣してもらい、利用者の声を聞いてもらっています。事故報告や外部評価結果の報告については必ず市に届けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は月に1回や頻繁にされる方とさまざまな状況です。訪問の際には近況を伝えるとともに、毎月1回お知らせの機会を設けています。金銭管理については金銭出納帳を明示し、確認後にはサインも得ています。その際、健康状態や服薬状況等、近況報告も行っています。機関紙の発行を検討中です。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に意見箱を設けています。また、家族が意見を自由に表せる雰囲気作りを心がけています。家族会も夏は茶話会、冬はクリスマス会等、行事の際に年2回開催し、何でも話し合える機会を作っています。家族から運営推進会議で提案された課題も話し合い、入浴時間の変更等、家族の意見も反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限に抑えるように努めています。新人職員が入るときは今回新規作成したマニュアルを使用しながら詳しく説明を行い、引継ぎ期間の配慮等スムーズに馴染めるよう工夫しています。認知症の利用者にとって馴染みの関係は大切に、新しい職員は写真を玄関に表示して紹介しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修共に、職員に参加したい研修内容の希望を聞き、対応しています。年間のおよその計画も立てています。大阪認知症高齢者グループホーム協議会からの案内や、府や市の研修も活用しています。また、研修会に参加した職員から研修報告や伝達講習もあります。ただ年間の研修計画に「緊急時対応」の研修が立てられていない状況です。	○	研修予定を職員全員に知らせ、受講しやすい環境作りをしていますが、今後は「緊急時対応」の内容を含めた研修を受講することが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。枚方市施設委員会に参加しています。枚方市内にあるグループホーム6ヶ所の連絡会や、管理者はキャラバンメイトとして地域包括支援センターと協力して活動しています。他の事業所や地域の方たちにも参加を呼び掛け、交流の機会として勉強会を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族が気軽に見学してもらったり、入居後は家族の訪問を密にしてもらったりする等、利用者や家族に安心感を持ってもらえる様工夫しています。最近、ホーム内でデイサービスを開始し、利用者は毎日1～3名います。またデイサービスの利用からホームへの入居につながった例もあります。今後の入居についてはデイサービス利用を通して馴染みの関係を築き、入居に至るまでの関係作りを目指しています。またショートステイも開始し、多機能な地域密着型サービスを目指しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今年から個別ケアに取り組んでいます。利用者毎に担当職員を決めて、居室を利用して、将棋をさしたり洗濯物をたたんだりしながら話を聞いています。散歩途中で、野菜の名前を教わったり、昔の言葉遊び、雑巾の縫い方などを教えてもらったりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な利用者については、家族や関係者から情報を聞き取っています。居室内の個別ケアを中心に、利用者の担当制を強化したことにより、利用者の言葉だけでなく、雰囲気や表情で訴えを理解できるようになってきています。介護相談員を月1回2名の方に来訪してもらい利用者の生の声を聞いてもらっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1回のミーティング、月1回の全体会議に職員が参加して介護計画を作成しています。利用者や家族、利用者に関わる職員の意見も取り入れて反映させています。またアセスメントシートも作成しています。成年後見制度を活用している方も入居しており、介護計画の同意を得るまでに困難を要する場合がありますが、家族等には介護計画に同意をもらっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が支援の中でモニタリングやアセスメントを行い、ケース会議等で情報を共有し、状態変化等、必要に応じて介護計画は見直しています。しかし、記録や書類が不十分なところがあります。	○	個別ケア等で蓄積された情報が、モニタリングやアセスメントで生かされていますが、介護計画書の6ヶ月に1回など、適切な期間での定期的な見直しと記録が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内でショートステイを実施し、数名の利用者がありました。また、デイサービスを開始して定員1～3名を受け入れています。協力病院との連携により訪問看護師が週1回来訪し、相談の機会があります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医に受診する機会があります。また、母体法人の病院からの往診を月2回受診、健康状態の把握に努めています。夜間の協力病院も確保しています。毎週看護師の訪問があり、利用者の状態把握や相談をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、家族の意見を尊重しつつ、事業所で支援できる範囲について職員間で話し合っています。	○	現時点では重度化や終末期の対応が困難であっても、利用者や家族の意向確認を行い、そのような状態になった時にどのように対応するかについて、医師や看護師を交えて話し合うことが求められます。急変時の対応など利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、今後の課題として検討することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを大切に尊重した対応を心がけています。職員は勉強会やミーティングの際に、プライバシーに関する意識を持って取り組んでいます。介護記録、薬等は鍵が掛かっているキャビネットに入れています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は決まっていますが、利用者の日々の体調や希望に合わせて過ごせる様に支援しています。できるだけ個別性に配慮した支援を行っています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食共ホーム内で調理し、できたての食事を提供しています。食材は外部から配送してもらっています。旬の物を使った料理は美味しいと喜ばれています。月に何度かは希望を聞き、どら焼きやお好み焼き、ピザ、サンドイッチ等、利用者と共におやつ作りをしています。また、おやつや果物は利用者も一緒に買いに行ったりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれの習慣や体調により、隔日で週3日は夕方に入浴を実施し、希望される利用者は毎日の入浴も可能です。入浴は同性介助を基本とし、くつろぎ安心して入浴を楽しめるように配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の興味や役割を生活歴や日々の会話から探し出し、好きな野球チームのスクラップを職員と一緒に作成したり、大人のぬり絵や編み物を楽しんだりしています。また、縫い物が得意な利用者がホームの雑巾作りを担っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲は田んぼが広がり、農道へ散歩に出かけています。散歩している様子はリビングから見渡せるので安心です。おやつや日用品の買い物は職員と一緒に出かけます。毎朝散歩をして気分転換を図ることで病気が回復に向かわれている方もいます。リハビリのため、向かいの病院へ通っている方も数名います。また、家族と食事に出かけたり、皆でお花見に行ったりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	従来玄関は施錠していませんでしたが、表道路の車の往来が激しく、行政指導により電子ロックを設置することとなりました。暗証番号の掲示を大きくしたり、職員に声を掛けてもらうように貼紙をする等、安全面には留意しながらも利用者に閉塞感を与えない工夫について配慮しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、職員会議等で確認しています。母体病院主催の防火訓練に参加し、消火器の使い方について等の訓練を受けています。グループホーム内では利用者と共に避難訓練を行っています。また非常用の食料や備蓄等は準備できていない状況です。	○	年2回以上の防災・避難訓練を行い、そのうちの1回は消防署の協力を得て、グループホーム独自で取り組むことが求められます。また災害対策として、非常用食料や備品についても準備することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分摂取量については記録があり、職員間で把握しています。旬の野菜を中心にバランスよく献立を立てています。また、栄養バランスについては、専門家にカロリー計算をしてもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は落ち着いた雰囲気、思い思いに過ごせる工夫があります。食堂や浴室、トイレはバリアフリーとなっています。リビングは、2面の大きな窓から広々とした田園風景が見渡せ、四季折々の移り変わりが楽しめます。また壁面には七夕飾りや手作りのカレンダーを飾っています。玄関には季節の花や野菜を植え、家庭的な趣きを心掛けています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、ベッドが備え付けられています。また各家庭から持ち込まれた家具や、テレビ、仏壇、家族や孫の思い出の写真、絵画、絨毯等、それぞれの居室を居心地のよいよう工夫しています。		